

## 地 理 歴 史

### 1 学習指導の改善・充実

#### (1) 学習指導の改善・充実の視点

地理歴史科においては、習得した知識、概念や技能を活用して課題を探究する学習を充実して、日本や世界の各時代及び各地域における風土、生活様式や文化、人々の生き方や考え方などを学び、それらを通じて過去や異文化に対する理解、国際社会に主体的に生きる資質を培うとともに、言語に関する能力を育成することが必要である。

#### (2) 効果的な学習指導

基礎・基本の定着を図り、自ら学び、自ら考えるなどの確かな学力を育成するためには、次の点に留意する必要がある。

##### 【世界史 A、世界史 B】

ア 指導内容の構成に当たっては、基本的なもの、本質的なものを精選、重点化すること。また、「日本史 A」、「日本史 B」及び「地理 A」、「地理 B」で扱われる学習内容との関連に留意すること。

イ 年表や地図、その他の資料の活用にあたっては、学習のねらいを明確にするとともに、資料の有効性や基本的な特性を踏まえること。また、年間指導計画の中に文化遺産、博物館や資料館などの調査・見学を取り入れるよう配慮すること。

ウ 主題を設定して行う学習の指導にあたっては、適切な時間を確保し、年間指導計画の中に位置付けて指導すること。また、主題の設定にあたっては、生徒の興味・関心や学校、地域の実態等や地理歴史科の他の科目や公民科などとの関連に留意すること。

エ 近現代史の指導にあたっては、生徒自身が客観的、公正な目で歴史的事象や資料を取り扱えるよう配慮すること。また、政治や経済の観点だけでなく、社会、文化、宗教、生活など様々な観点から歴史の動きを総合的に理解させるよう留意すること。

##### 【日本史 A、日本史 B】

ア 我が国の歴史の展開について、国際環境と関連付け、「世界史 A」、「世界史 B」との関連に留意し、年表、絵画や写真、関係図など適切な資料の活用を図るなどして関心を高めるとともに、国内外の諸事象間の因果関係を考察させる指導を重視すること。

イ 歴史上の出来事の舞台となった諸地域について地図帳や地形図の活用を図りながら学習させるなど、我が国の歴史を地理的条件と関連付けて多面的・多角的に考察させるようにすること。その際、「地理 A」、「地理 B」や中学校社会科地理的分野との関連を十分に踏まえること。

ウ 指導内容の構成にあたっては、高度で複雑な内容に深入りしたり、細かな事象の記憶に偏ったりした学習にすることなく、ひとまとまりの内容の焦点となり、歴史の展開を大観する上で柱となるような基礎的・基本的な事項・事柄を精選すること。

エ 諸資料の活用について、示された資料などの内容を受入れるのではなく、自ら資料を収集・選択する力やそれを批判的に読み取って解釈し考察に生かす力、その成果を年表など自ら作成した資料の形で適切に表す力を身に付けさせること。

オ 国民生活や地域社会の歴史と文化の学習などについて、文献資料、新旧の地形図や写真のほか県史や市町村史、学校ほか諸団体の沿革史など各種資料の活用、情報通信ネットワークを利用した情報の収集・活用を図るとともに、博物館や資料館の利用、聞き取り調査、現地での文化財の観察など様々な学習方法を工夫すること。また、作業的・体験的な学習を重視するとともに有効な考察の観点を示すなどして、生徒の主体的な学習姿勢を引き出すこと。

カ 近現代の学習に当たっては、客観性の高い資料に基づいて、事実の正確な理解に導くよう留意し、史実の認識や評価に慎重を期すること。その上で、多様な資料を用い、生徒自身が歴史的諸事象の背景や意味を様々な立場から考察することができる歴史的思考力を養うようにすること。

キ 歴史を考察し表現する学習を指導計画に位置付けること。併せて、普段の学習においても課題解決的な学習を取り入れるよう工夫し、各単元や各単位時間の学習の導入の過程で生徒に明確な課題意識を持たせたり、まとめの過程で考察した成果を生徒自身の表現でまとめさせてその定着を図ったりすること。

### 【地理A、地理B】

ア 指導内容の構成に当たっては、内容及び内容の取扱いの趣旨を十分踏まえ、各項目のねらいや生徒の実態等を十分考慮して基本的な内容を取り上げ、その習得を図ること。

イ 地理的技能は、それに関わる学習を繰り返す中で次第に習熟の程度を高めるようにして身に付けさせること。また、地図帳に掲載されている一般図や主題図、その他写真や統計資料など様々な地理情報を十分に活用すること。

ウ 言語活動を充実させる観点に立って、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実させること。

エ 地理の学習では、人文地理に関する内容は公民科の「現代社会」及び「政治・経済」と、自然地理に関する内容は理科の地学や生物に関連する科目と関連が深いことから、相互の科目の特性などを考慮して、関連、調整を図ること。

オ 日本の取扱いについては、各項目の内容に応じて、日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察させること。その際には、日本を、現代世界を構成する地域の一つとして扱うこと。また、事例として取り上げる各地域と日本とを必要に応じて比較したり関連付けたりして、現代世界に対する地理的認識が深められるよう工夫するとともに、地理的な見方や考え方の育成を図り、広い視野から国際社会における日本の役割について考えさせること。

## 2 評価方法の改善・充実

### (1) 学習評価の基本的な考え方

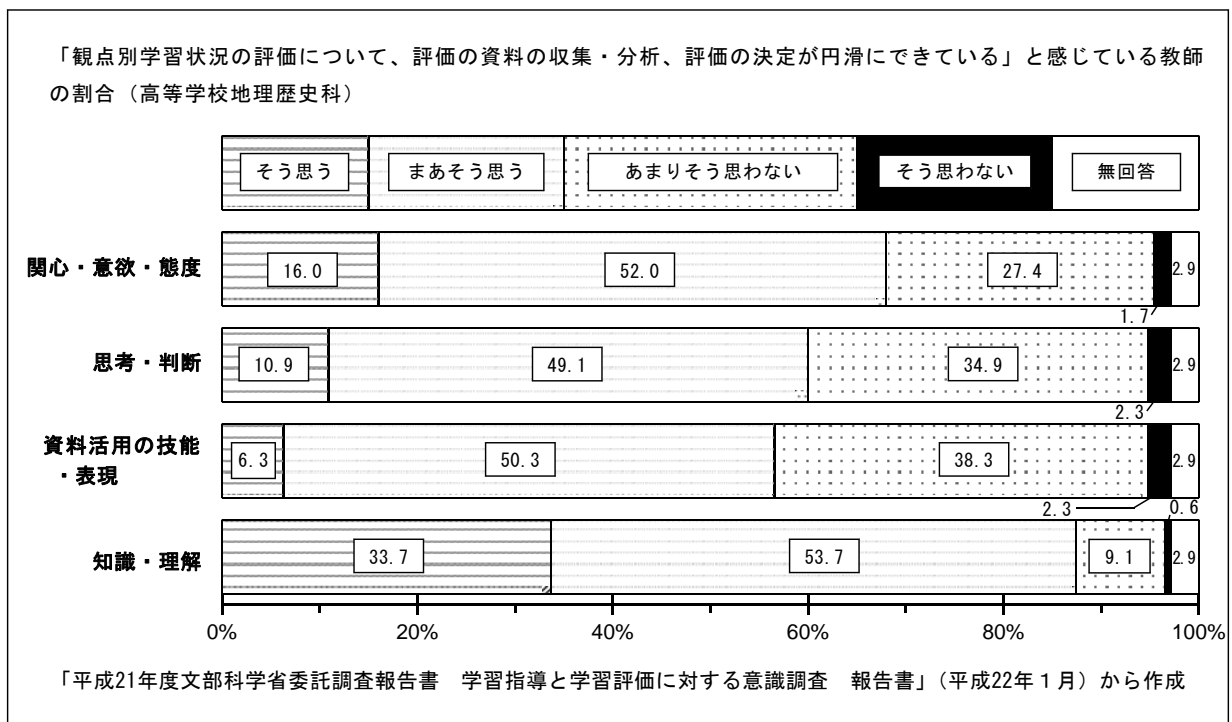
学習評価は、学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するものである。各科目における生徒の学習状況を分析的に捉える観点別学習状況の評価と総括的に捉える評定とを、目標に準拠した評価として実施する必要がある。

学習評価を行うに当たっては、学校教育法や学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力等や、主体的に学習に取り組む態

度に関する観点についても評価を行うなど、観点別学習状況の評価の充実を図り、きめの細かい学習指導と生徒一人一人の学習の確実な定着を図っていく必要がある。

## (2) 地理歴史科における学習評価の課題

平成21年度に実施された文部科学省の調査によれば、「いわゆる4観点の評価は実践の蓄積があり、定着してきている」と感じている教師は、小学校が81.3%、中学校が76.2%であるのに対し、高等学校では41.3%に留まっており、観点別学習状況の評価の定着に課題がある。さらに、この調査を地理歴史科の評価の観点ごとに見ると、「知識・理解」においては「比較的円滑に実施できている」と回答した教員が87.4%となっているものの、「関心・意欲・態度」は68.0%、「思考・判断」は60.0%、「技能・表現」は56.6%に留まっている。



このような実態から、地理歴史科の学習評価に関わる喫緊の課題は、「知識・理解」以外の3つの観点についての観点別学習状況の評価を着実に推進することであり、さらに、きめの細かい学習指導と生徒一人一人の学習の確実な定着を図ることにあると考えられる。

評価規準の設定に当たっては、評価の4観点のバランスに十分留意する必要がある。高等学校の学習評価については、これまで「知識・理解」の観点に偏りがちであると指摘されることが多かったが、「思考・判断・表現」や「資料活用の技能」に着目した評価活動を工夫していくことにより、学力の3要素の一つである思考力・判断力・表現力等の育成が期待される。

この効果をあげるためには、ペーパーテストを中心とする定期考査による評価だけでなく、授業中に用いるワークシートやノートの活用による評価、発言内容や活動状況の観察による評価など、多様な評価方法を取り入れることが大切である。また、評価方法を工夫することによって、学習指導要領改訂の趣旨を反映した効果的な指導を円滑に実施できるばかりでなく、評価の妥当性や信頼性を高めることも可能になる。

### (3) 評価の観点及びその趣旨

学習指導要領を踏まえ、地理歴史科の特性に応じた評価の観点及びその趣旨は次のとおりである。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	歴史的・地理的事象から課題を見だし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

なお、「思考・判断・表現」の「表現」は、これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく、思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて生徒がどのように表出しているかを内容とする観点である。

また、今回の改訂で設定された「技能」については、これまで「技能・表現」として評価されていた「表現」をも含む観点として設定されている。

### (4) 地理歴史科における学習評価の考え方

ア 「関心・意欲・態度」について、例えば、「日本史A」において、科目の導入に当たる「(1) 私たちの時代と歴史」の学習の際に、歴史への関心と課題意識を高めて意欲的に学習に取り組もうとしているかどうかを、適切な評価規準を設け、生徒による記述内容や継続的な行動観察などを通して評価することが求められる。

イ 「思考・判断・表現」について、例えば、「地理A」、「地理B」において、生徒が地図から情報を取り出し、解釈、熟考・評価することが期待されており、今回の改訂では、地図活用に関わる項を起こす形でさらに重視されていることから、地図の読図や作図などの体験的な活動を通じて育成された思考力・判断力・表現力等に着目し、この観点からの適切な学習状況を把握することが求められる。

ウ 「資料活用の技能」について、例えば、「日本史B」において、科目の導入に当たる(1)の「ア 歴史と資料」や(2)の「ア 歴史の解釈」、(3)の「ア 歴史の説明」の学習の際に、資料を読み取る力をはじめ、読み取った内容を歴史の展開と結び付けることができるかどうかを、ワークシートの工夫などによって適切に評価することが求められる。

エ 「知識・理解」について、例えば、「世界史B」において、(4)の「イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界」の学習の際、世界の一体化という視点から世界の歴史を構造的に理解するという趣旨が一層明確化されたことを踏まえて、「知識・理解」の観点に関わる内容の精選や重点化を図ることが求められる。

### 3 学習評価の具体例

#### (1) 「世界史B」の学習評価の例

【単元の指導計画の例】(一部)					
単元名	産業社会と国民国家の形成 (10時間)				
単元の目標	産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。				
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用・技能	知識・理解	
評価規準	産業革命と国民国家の形成など、18世紀後半から19世紀の世界的事象に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	産業革命と国民国家の形成など、18世紀後半から19世紀の世界的事象について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	産業革命と国民国家の形成など、18世紀後半から19世紀の世界的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	産業革命と国民国家の形成など、18世紀後半から19世紀の世界的事象についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。	
時程	学習活動	評価の観点		学習活動における評価規準	評価方法
		関	思 技 知		
<p>【本時のねらい】 産業革命により工業化を達成したイギリスとアジア・アフリカとの関係について世界市場の形成と関連付けながら考察させるとともに、イギリス国内では労働問題や社会問題が発生したことに対する関心と課題意識を高めさせる。</p>					
第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>木綿の原料地などのまとめなどから、イギリスを中心とした世界市場の形成について考察する。</li> <li>資料から、労働者として子どもや女性が働いている理由をワークシートに記入したり発言したりする。</li> </ul>	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図などを参考に工業化を達成したイギリスとアジア・アフリカとの関係を世界市場の形成と関連付けて考察している。</li> <li>子どもや女性の労働状態などから労働問題や社会問題の発生について関心を高め、意欲的に追究している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> <li>ワークシート</li> <li>発言</li> </ul>
<p>※思考・判断・表現の評価及び 関心・意欲・態度の評価の実際</p> <p>※地図の活用を図りながら考察させることをねらいとしたワークシート</p>					
<p>【ワークシートの例及び「おおむね満足できる」状況(B)と判断される例】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>1 産業革命時に人口が集中した次の都市名を調べて、図1にその位置をそれぞれ①、②で示しなさい。</p> <p>①ランカシャー地方で最大の綿工業都市 [ ]</p> <p>②奴隷貿易で栄え、綿製品の輸出港として栄えた商業都市 [ ]</p> <p>2 資料集○○ページの図(19世紀前半のイギリスの世界貿易)から木綿の原料地を△、機械で大量生産された綿製品の供給地を▼の記号で図2に示しなさい。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>3 産業革命後のイギリスとアジアやアフリカとの関係について、「世界の工場」という語句を用いてまとめなさい。</p> <p>イギリスは、アジアやアフリカなどから原料を調達し、工場で作られた製品の市場をアジアやアフリカに求めた。その後、イギリスの製品が世界中に輸出されたことから「世界の工場」と言われた。</p> <p>4 教科書○○ページの「紡績工場」の図を見て、現代の工場の様子と異なる点を考えなさい。また、その理由も書きなさい。</p> <p>【異なる点】 子供や女性ばかり働いていて、大人の男性で働いている人がいない。</p> <p>【理由】 子供や女性は、不満を言わず、安い賃金で雇うことができるからだと思う。</p> </div> </div> <p>●3については、1～2でまとめた内容などを基に、多面的・多角的に考察し、自分の言葉でまとめている。[思考・判断・表現] ●4については、労働者問題について、関心と課題意識を高めている。[関心・意欲・態度]</p>					
<p>【「十分満足できる」状況(A)と判断される例】</p> <p>○ 「3」への生徒の記述例 産業革命により世界で最初に工業化を達成したイギリスは、原料や市場の獲得のために、アジアやアフリカの植民地化を進め、「世界の工場」として繁栄した。その結果、イギリス中心の世界市場が形成され、イギリスとアジア・アフリカの間の経済格差は広がっていった。</p> <p>●図2で学習した内容を活用し、その後の世界への影響を含めて考察し、表現している。</p>					
<p>【「努力を要する」状況(C)と判断される例と指導の手立て】</p> <p>○ 「3」への生徒の記述例 世界で最初に産業革命が起こったイギリスは、「世界の工場」として繁栄した。</p> <p>●指定された語句を使用しているが、図2で学習した内容を活用せず、世界的視野から産業革命の影響を考察していない。</p> <p>□ 指導の手立て 図2に着目させ、木綿の原料と綿製品の流れを矢印で示すなどして、イギリスとアジアやアフリカとの関係を具体的に考察させる。</p>					

(2) 「日本史B」の学習評価の例

【単元の指導計画の例】(一部)				
単元名	産業経済の発展と幕藩体制の変容(9時間)			
単元の目標	幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展、町人文化の形成、欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想の動きに着目して、近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察させる。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成から課題を見だし、欧米諸国のアジアへの進出などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択し、情報を読み取ったり図表にまとめたりしている。	近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成についての基本的な事柄を、欧米諸国のアジアへの進出などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
時程	学習活動	評価の観点 関 思 技 知		学習活動における評価規準
				評価方法
<p>【本時のねらい】</p> <p>享保の改革の諸政策について、当時の商品経済の発展や幕府の支出増加などと関連付けながら理解させるとともに、諸資料の読み取りを通して百姓一揆の増加など享保の改革以降の諸問題に対する課題意識を高めさせる。</p>				
第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>享保の改革の諸政策のねらいや内容について、教科書などを調べながらノートにまとめ、理解する。</li> <li>諸資料を読み取り、百姓一揆の増加など、享保の改革以降の諸問題についてワークシートにまとめる。</li> </ul>	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
<p>※本時の評価の観点は、2つとした。</p> <p>※資料の読み取りを通して、課題意識を高めさせることをねらいとしたワークシート</p>				
<p>※関心・意欲・態度の評価の実際</p>				

【ワークシートの例及び「おおむね満足できる」状況(B)と判断される例】

1 次の表を見て、享保の改革の成果と言えることを書いてみよう。

期間	1年平均米残高	1年平均金残高
1722~31年	3万5654石	12万7557両
1732~41年	4万8575石	37万4519両
1742~51年	7万5594石	41万5562両

米残高や金残高が増加しており、財政が黒字になっていることが成果と言える。

(「江戸実情誠齋雑記」などから作成)

2 教科書○ページのグラフ(幕領の石高と年貢収納高、年貢収納率の推移)を見て、幕領の石高などの数値がどのような推移を示しているか、まとめてみよう。

幕領の石高、年貢収納高、年貢収納率とも、享保の改革が行われた18世紀半ば頃までに上昇しているが、18世紀半ば以降は増えていない。

3 教科書○ページのグラフ(百姓一揆等の件数の推移)を見て、百姓一揆等が多い時期や件数の推移について書いてみよう。

享保の飢饉や天明の飢饉など飢饉が起きた時に百姓一揆が多く発生している。また、18世紀の後半以降に増加している。

4 次の史料A、Bを読み、武家の窮乏について、それぞれの史料が書かれた時期に着目しながら、気付いたことを書いてみよう。

【史料A】今の大名は、皆頭を下げて町人に借金を頼み、江戸・京都・大坂などあちこちの富商から借金を続けていくことで生活を送っている。……大名ですらこうした状況であるので、少禄の武士たちの状況はいままでもない。(「経済録」1729年成立 ※口語訳)

【史料B】一般に武士は大身も小身も困窮しており、……あるいは父祖から伝来した武器や戦場で戦った時の武器、その他その家に大切な品であっても、気にかけて売り払い、……。(「世事見聞録」1816年成立 ※口語訳)

史料Aが書かれた享保の改革の頃も、それから約90年後に史料Bが書かれた頃も、武家の窮乏は同じように深刻である。

5 1~4や、この単元の学習で学んだことを参考に、享保の改革以降の幕府の政治について学びたいと思うことを書いてみよう。

幕府の財政再建という成果が出た享保の改革でも解決していない百姓一揆の増加や武家の窮乏に対するこの後の幕府の政策と結果を学びたいと思う。

●1~4については、それぞれの資料から情報を読み取り、自分の言葉でまとめようとしている。

●5については、1~4でまとめた内容などを基に、享保の改革以降の幕府の政治に対する関心と課題意識を高めている。

【「十分満足できる」状況(A)と判断される例】

○ 「5」への生徒の記述例

百姓一揆の増加や武家の窮乏などは、年貢増徴政策の限界や商品経済の発展が関係していると思うので、この後の幕府の政策がこうした社会状況にどう対応しようとし、どのような結果となったのかについて学びたいと思う。

●本単元で学習した、商品経済の発展などの社会の変容といった内容とも関連させて、この後の学習への課題意識を高めている。

【「努力を要する」状況(C)と判断される例と指導の手立て】

○ 「5」への生徒の記述例

この後の幕府はどのような政策を行ったのかを学びたいと思う。

●今後の学習課題を見だしてはいるが、学習した内容と関連付けようとしていない。

■ 指導の手立て

2~4でまとめた内容が、以後の幕府の課題となり、幕府の政策がこれらに対応するものであることに着目させる。



# Topic

## 地理歴史科におけるキャリア教育の推進

◆ キャリア教育を教育活動全体を通じて、体系的・系統的に行うためには、教科・科目の目標や各単元における主な学習活動などと、キャリア教育の視点から身に付けさせたい力との関わりを整理し、明確にしておく必要がある。

### 地理歴史科の指導内容とキャリア教育－「基礎的・汎用的能力」を視点として－

八咫ノ能十	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	問題解決能力	キャリアプランニング能力
地 理	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題追究的な学習の中で自分の考察した意見を相手に的確に伝える。</li> <li>他者の多様な意見を受け入れて考えを深める。また、疑問に思うことを質問する。</li> <li>博物館・資料館などの調査・見学活動を通し、地域の人々と交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地理的な見方や考え方を踏まえ、諸事象の空間的な規則性や傾向性を捉える。</li> <li>諸地域を比較し関連付け、一般的共通性と地域的特殊性の視点から捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収集した地理情報を目的に合わせて処理・選択し、地域性を読み取り、比較し、関連付け、変容を捉える。</li> <li>現代世界が抱える地球環境問題などの諸課題を、地域性を踏まえて考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地理的事象の背景を地域の枠組みで捉え、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みに着目し自己の役割を追究する。</li> <li>地理的事象の変容を捉え、地域の課題や将来像について考える。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>諸地域世界の形成、交流と再編、結合と変容、及び一体化の過程を政治・経済・社会・文化など幅広い見方で捉える。</li> <li>日本列島内の地域的差異を、地域の特色や相互の関係性などの理解を通し、地域社会と国家の歴史的な関わりから捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学技術の利用の在り方や宗教・民族を巡る紛争などの諸課題を、歴史的背景を踏まえて考察する。</li> <li>年表・地図の他にも文献資料や画像資料、映像資料などを活用し、様々な視点から考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的事象の背景を考察し、世界との関連の中で日本及びその属する地域の将来像を考え、自己の役割を追究する。</li> <li>歴史上の人物の生き方について、時代背景などを踏まえて考察し、自己の生き方や役割、将来設計を考える。</li> </ul>
歴 史				

文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」（平成23年11月）から作成

#### ▶ 地理Bにおけるキャリア教育の実践例 単元名「(2) 現代世界の系統地理的考察 イ 資源、産業」

<本時のねらい>

- エネルギー資源の乏しい日本とドイツ両国のそれぞれのエネルギー政策の違いを、諸資料を活用して比較することを通して、将来にわたる日本のエネルギー政策の在り方に対する課題意識を高めさせる。

学習項目	生徒の活動	授業者の働き掛け	指導上の留意点
導入 ・日本のエネルギー自給率	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の資源の自給率のグラフを参考にしながら、現在の生活や経済活動が、他国とのつながりの中で成立していることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「国別に見た発電のエネルギー源」や「日本の資源の輸入先」のグラフを参考にしながら、日本が現在の経済活動や生活水準を維持するためには、資源を安定的に輸入する必要があることを説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの国が再生不可能なエネルギー（化石燃料）中心の消費であることに気付かせる。</li> </ul>
展開 ・再生可能エネルギー導入をめぐる日本とドイツの比較	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフからドイツと日本における再生可能エネルギー導入の推移を読み取る。</li> <li>ドイツと日本の再生可能エネルギー導入の背景を理解する。</li> <li>資料などを基に、日本のエネルギー供給の将来、エネルギー政策の在り方について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドイツでは日本よりも再生可能エネルギーの導入が積極的に進められてきたことを、グラフから読み取らせる。</li> <li>ドイツと日本における再生可能エネルギーの導入に関する考え方の違いについて説明する。</li> <li>それぞれの意見の根拠となる資料を選択させながら考察させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎収集した地理情報を目的に合わせて処理・選択し、地域性を読み取り、比較し、関連付け、変容を捉える。【課題対応能力】</li> <li>☆資料の読み取りを通して、日本のエネルギー政策の在り方について意欲的に追究している。</li> </ul>
整理 ・日本のエネルギー供給の将来	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本のエネルギー供給の将来、日本のエネルギー政策の在り方について、自分の意見を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を踏まえ、日本のエネルギー政策の在り方について自分の意見をノートにまとめさせ、2～3人の生徒に発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○結論が画一的にならないよう留意する。</li> <li>◎課題追究的な学習の中で、自分の考察した意見を相手に的確に伝える。【人間関係形成・社会形成能力】</li> </ul>

[指導上の配慮事項と評価における凡例]

○：配慮事項 ◎：キャリア教育の視点から見て特に重要なこと ☆：評価